

平成22年 5月28日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2009

課題番号：20730097

研究課題名（和文） 欧州諸国における大連合政権の形成と運営に関する比較研究

研究課題名（英文） Comparative research on building and management of grand coalition governments in European countries

研究代表者

安井 宏樹 (YASUI HIROKI)

神戸大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：60396695

研究成果の概要（和文）：ドイツの事例を中心に大連合政権の形成と運営について研究した。大連合形成の構造的要因視されてきた分割政府状態は、連邦与野党のいずれもが連邦参議院の過半数を掌握できない不完全なものがドイツでの最頻パターンであった。キージンガー大連合政権の形成は政治的打算に左右され、政権運営も喫緊の課題解決に傾斜していた。メルケル大連合政権では、財政均衡重視の姿勢が政権を支える一方、セーフティーネットの構築をめぐる対立が存在していた。

研究成果の概要（英文）：This project explored the formation and management of grand coalition governments in mainly Germany. Though it was said that the divided government was a structural cause of making a coalition between two big parties, the most frequent pattern of government in Germany is a "partial" divided government which means that neither ruling coalition parties nor opposition parties get control of the upper house. The case study of Kiesinger government revealed that political calculations was the main driving force to make a grand coalition which tended to focus on the urgent issues. In the case of Merkel government, two big parties agreed with the principle of balanced budget, but conflicted in particulars such as the safety nets for the unemployment.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：比較政治

キーワード：政党システム、連合政治、福祉国家、ガバナンス

1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化・少子高齢化の進行に伴う政治経済構造の調整は、今日の先進国にほぼ共通してみられる政策課題であり、それをめぐる政治過程の研究も活発に行われてきた。

(2) その中で、ドイツでの改革に関する研究を例に挙げると、「交渉民主主義」モデルや、「半主権国家」論など、決定権限の分有・交錯を特徴とするガバナンス構造が改革の遅れをもたらしていると論ずるものが中心であった。より広く、比較の視座を取り込もうとしたものとしては、「拒否権プレイヤー」モデルを利用した研究がある。

(3) それに対し、研究代表者の安井は、構造を重視する研究が陥りがちな決定論的色彩を是正すべく、政治アクターの行動による変化の可能性という契機を研究してきた。

(4) 本研究は、こうしたこれまでの研究活動の蓄積を継続発展させるべく、「大連合」という政権枠組みが有する新たなガバナンス構造構築の可能性について、政治アクター（とりわけ政党）の戦略と行動に注目し、かつ、比較の視座を取り入れながら、究明することを目指して展開された。

2. 研究の目的

本研究では、2000年代後半に大連合政権が誕生したドイツ・オーストリア・チェコ共和国と、同様に左右伯仲の拮抗状態にありながら、大連合ではなく、不安定な二大ブロック対決政治を繰り返しているイタリアの事例を比較することによって、大連合形成をもたらした条件（投票行動の変化、政党システムの変

化など）を考察し、大連合政権の下での行動が、左右の拮抗によって停滞していた改革政策の処理にとどまるのか、それとも、迅速な政治的決定を阻害する構造的な制約（「拒否権プレイヤー」の存在など）への対処にまで踏み込むのかを解明する。

3. 研究の方法

(1) 研究方法の全体構想：研究方法の全体構想を図示すると下記の図1のようになる。

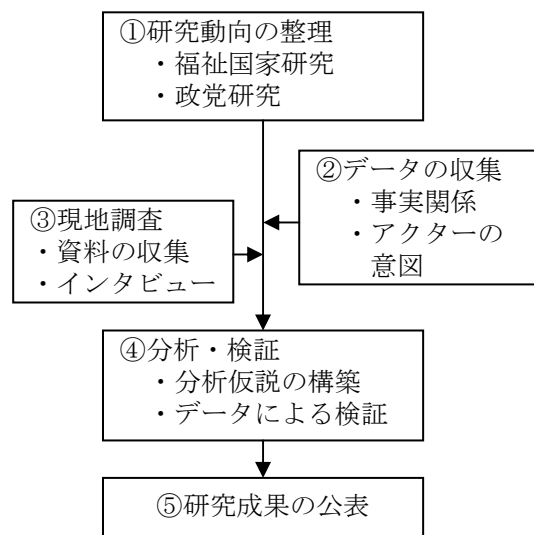


図1：研究方法の全体構想イメージ

(2) 具体的な研究方法

①研究動向の整理：研究対象であるドイツ、オーストリア、チェコ共和国、イタリアについて、福祉国家研究・政党研究に関する文献を調査し、研究動向を整理する。また、大連合政権の形成についての研究動向も調査・分析する。

②データの収集：大連合政権の改革政策を研究するために必要なデータを収集する。事実

関係については、インターネットで配信されている各通信社（AFP, AP, ddp, dpa, Reuter など）の雑報を収集してデータベース化し、研究の基礎資料とする。さらに、Frankfurter Allgemeine Zeitung や Süd deutsche Zeitung をはじめとする新聞、Der Spiegel などの雑誌の報道記事を収拾して補完する。

③現地調査：各政治アクター（政党や利益団体）の政策意図を調査するためには、現地へ赴くことが必要となる。発行物等の収集の他、関係者へのインタビューを行う。また、現地の研究者との意見交換を行い、知見を学術的に整理する際の参考とする。

④分析・検証：先行業績を総括して得られた知見に、調査・収集したデータに基づく考察を加えることによって、分析仮説枠組みを構築する。その成果を、国内外の学会・研究会等で報告し、他の研究者からの知見を研究成果に取り込んでいく。

⑤研究成果の公表：研究成果の公表を期して論文作成の作業を進める。暫定的な研究成果をまとめた時点で学会・研究会等で報告し、そこからのフィードバックを取り込んだ上で、最終的な詰めの作業を進める。

4. 研究成果

(1) 戦後ドイツにおける大連合政権の歴史的前例として、1966年に成立したキージンガー政権の形成と運営について分析した結果、同政権の形成は、中長期的な構造変化の影響よりも、短期的な権力政治上の打算に大きく左右されており、政権の運営も、喫緊の政策

課題の解決に傾斜していたことが明らかになった（研究成果：図書①）。

(2) また、近年のドイツで大連合政権を生み出す構造的な要因となっている分割政府状態について研究を進めた結果、以下の2点の知見を得た（研究成果：学会報告①、雑誌論文②）。

①州政府が連邦参議院の構成員となるドイツでは、連邦政府与党と連邦レベルでの野党とが連立する州政府（以下、「混在州」）が少なからず存在することから、連邦与党・野党のいずれもが連邦参議院での過半数を掌握できない状態が最も多く見られるパターンとなっている（下記の図2を参照）。

②「混在州」では、連邦レベルとは異なる勢力分布になっていることに加えて、州独自の利害を材料とした交渉の余地もあることから、州の連邦野党を説得できる可能性が相対的に大きい。そのため、個別具体的な案件ごとに行われる連邦野党との交渉が立法過程を大きく左右してきた。

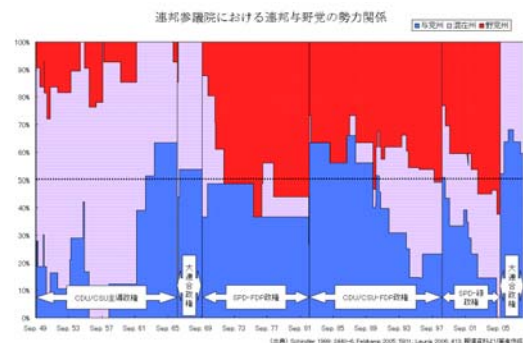


図2 連邦参議院における連邦与野党の勢力関係

(3) 大連合政権の運営については、ドイツのメルケル政権で政策課題となった年金制度改革と法定最低賃金制度導入問題について

分析し、財政均衡重視の姿勢が大連合政権を支える要素となっている一方、いわゆるセーフティネットの構築をめぐって対立が存在することを確認した（研究成果：雑誌論文①・③）。

(4) また、4年間の大連合政権を経て行われたドイツ総選挙の現地調査を行った他、網谷龍介（明治学院大学）・中田瑞穂（名古屋大学）・伊藤武（専修大学）の各氏とオーストリア・チェコ・イタリアの事例について意見交換を行った。その成果は、2010年5月に東京大学出版会から『ヨーロッパ政治ハンドブック』として刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 安井宏樹、「ドイツの労働運動と政治：戦後福祉国家下の成功とその動揺への苦悩」、新川敏光・篠田徹（編）『労働と福祉国家の可能性：労働運動再生の国際比較』（ミネルヴァ書房）、査読無し、2009年、178-196頁。
- ② 安井宏樹、「ドイツの分割政府と立法過程」、日本政治学会（編）『年報政治学：民主政治と政党制度』、査読あり、2009年、303-321頁。
- ③ Hiroki Yasui、Social Changes and Organizational Adaptations in the Age of Post-Welfare State: Diversified Responses of Political Parties and Trade Unions in Germany, Kobe University Law Review, Vol. 42 (2009),

査読無し、pp. 13-27.

〔学会発表〕（計1件）

- ① 安井宏樹、ドイツにおける分割政府と法案形成過程の関係、日本政治学会、2008年10月11日、関西学院大学。

〔図書〕（計1件）

- ① 高橋進・安井宏樹（編）『政権交代と民主主義』（東京大学出版会）、2008年、総ページ数206。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安井 宏樹 (YASUI HIROKI)

神戸大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：60396695